令和３年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

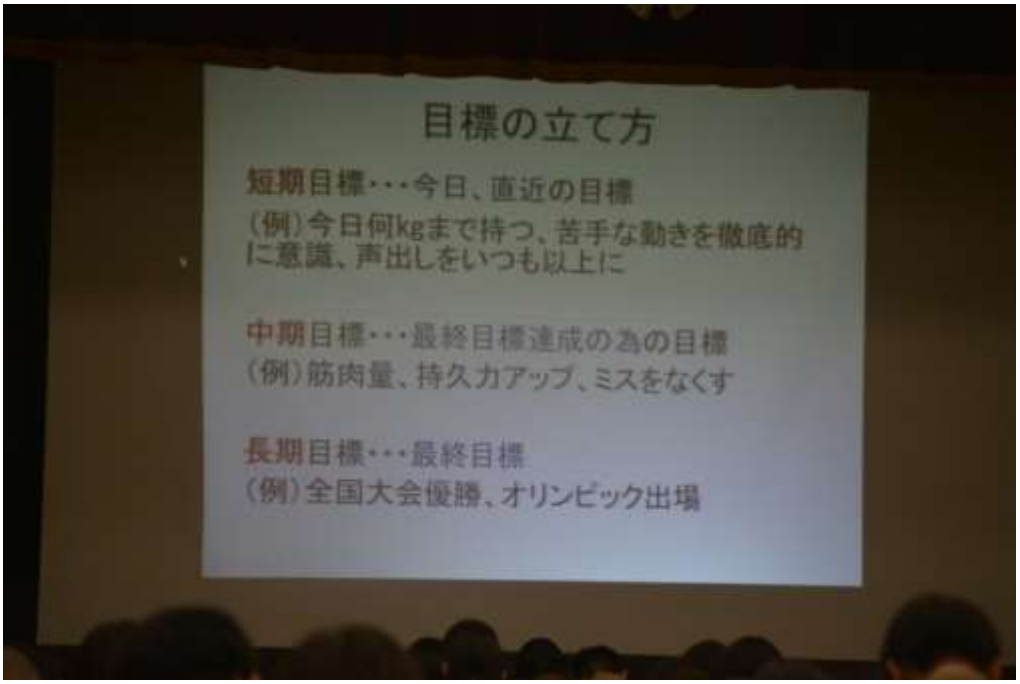
Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　京都府　】

学校名【　京都府立鳥羽高等学校　】

１ 実践テーマ	【　Ⅲ･Ⅴ　】
２ 実施対象者	スポーツ総合専攻１年（男26名、女13名　合計39名） ２年（男25名、女15名　合計40名） ３年（男25名、女15名　合計40名） 文科スポーツコース　３年（男22名、女15名　合計37名） スポーツ・教養コース　１年（男22名、女15名　合計37名） ２年（男17名、女13名　合計30名）
３ 展開の形式	（１）学校における活動 ① 教科名（　スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ　） ② 行事名（　オリンピック・パラリンピック教育講演会　）
４ 目　標 （ねらい）	オリンピック・パラリンピック教育を行う事で、2020 年東京オリンピック・パラリンピック(2021 年実施)以後も積極的に参画し、スポーツを通してグローバルな活躍ができる人材の育成を目指す。
５ 取組内容	（１）実施日時　令和３年 12 月 17 日(金) 13 時 05 分～15 時 45 分 （２）実施場所　本校講堂 （３）実施形態　講演 （４）講　　師　八木かなえ氏(綜合警備保障所属) （５）内　　容 『～オリンピック３大会連続出場の軌跡～』をテーマに講演を行っていただいた。八木氏は、５歳から体操に取り組み、高校入学後からウエイトリフティングを始めている。競技歴わずか８ヶ月でアジアユース優勝。その後、ロンドン、リオデジャネイロ、東京オリンピックに３大会連続で出場した。講演では、緊張を楽しむことや、辛い時、苦しい時に自分のためだけでなく周りの人のために頑張ることなどを熱心に語っておられたのが印象的であった。 生徒は事前学習においては、講師紹介のプリントを読み、講師への質問事項を考えた。事後学習ではポートフォリオを作成した。
６ 主な成果	（１）生徒感想 ①スポーツは怪我がつきもので、怪我を最小限にするためにアップやダウンをしっかり行うこと、栄養や睡眠などにも気を配ることが大切で、規則正しい生活が競技の基盤になることがわかった。 ②緊張することは悪いことではなく、当たり前のことでそれを楽

	しんだり、エネルギーに変えられたりできるように取り組もうと思った。 ③改めて誰よりも努力をすることをどれだけ継続できるかが自信につながると認識できた。ただ、努力の方法を見直す必要があるとも感じた。 ④目標を、長期、中期、短期と細分化しながら立て、日常からその目標と向き合いながら練習していくことを実践しようと思った。 （２）主な成果 ①生徒は、現役トップアスリートの競技に対する取り組みや、意識、また日常生活の過ごし方などを聴き、大きな刺激を受けた。 ②選手村の様子や試合当日までのお話の中で、様々な方々の支援に対する感謝の気持ちや、自己管理（新型コロナウイルス感染症の予防や検査を含む）の難しさを知ることができた。
７ 実践において工夫した点（事業の特色）	事前学習をしたり、質疑の内容を事前に考えさせたりしたことで主体的に受講できた。
８ 主な課題等	（１）継続的に取り組む事で、生徒達の意識改革につながる。 （２）講演をするに当たって講師費用が安価すぎる。素晴らしい講演をお願いするにはそれなりの代価が必要なので、体育系設置校合同で行うなど工夫が必要。 （３）どんな競技でも良いが、実際にトッププレイヤーの試合の観戦や練習の見学ができる機会が欲しい。 （４）人間力を高める学習に繋がる為に、競技者以外の方々から学ぶ事も重要と考える。 （５）コロナ禍で、講師の依頼と事業の実施に更なる負担がかかることを懸念している。
９ 来年度以降の実施予定	来年度も講演を実施しようと考えている。卒業生で活躍している大相撲の宇良和輝氏、NPB オリックスバッファローズ所属の平野佳寿氏、シンクロナイズドスイミング女子東京オリンピック日本代表の福村寿華氏などを講師で調整しようと考えている。


目標の立て方
短期目標・・・今日、直近の目標
（例）今日何kgまで持つ、苦手な動きを徹底的に意識、声出しをいつも以上に
中期目標・・・最終目標達成の為の目標
（例）筋肉量、持久力アップ、ミスをなくす
長期目標・・・最終目標
（例）全国大会優勝、オリンピック出場

令和３年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　京都府　】

学校名【　京都府立鳥羽高等学校　】

１ 実践テーマ	【Ⅰ　Ⅲ　Ⅴ】
２ 実施対象者	スポーツ総合専攻３年（男２４名、女１５名　合計３９名） 文科スポーツコース３年（男２名、女８名　合計１０名）
３ 展開の形式	（１）学校における活動 ①　教科名（　スポーツ科学概論　）
４ 目　標 （ねらい）	オリンピック・パラリンピック教育を行う事で、2020 年東京オリンピック・パラリンピック（2021 年実施）に様々な形で積極的に参画し、スポーツを通してグローバルな活躍ができる人材の育成を目指す。
５ 取組内容	「パラリンピックについて知ろう」という授業を行い、パラリンピックの起源、これまでの経緯などに関する講義を行った。また「パラリンピック種目を体験しよう」というテーマで、シッティングバレーボールとボッチャを実践した。
６ 主な成果	（１）生徒感想 ①シッティングバレーボール 〇動きに制限のかかった状態で行うのはとても難しかった。 〇シッティングバレー特有の動きは難しかったが、練習をしていくうちにできるようになってきて、達成感があった。 〇不自由ながらも仲間とコミュニケーションをとりながら行えてとても楽しかった。 ②ボッチャ 〇障がい者と健常者が分け隔てなく楽しむことのできるスポーツであると感じた。 〇ジャックボールの位置や相手との駆け引きなど、勝負どころがたくさんあるので、やっていても見ていても楽しかった。 〇純粋にまたやりたいと思えるスポーツだと感じた。 （２）主な成果 ①生徒からは、普段当たり前に行っている「立つ」「歩く」「走る」「見る」等の動作が制限される中でのスポーツ体験に、「難しい」「体力的にとてもきつい」「恐怖心の克服が難しい」等といった感想が寄せられた。実際に体験をしてみて実感したことも多く、障がい者スポーツへの理解が深まった。

	②パラリンピック種目の体験から、障がい者の日常生活やスポーツ活動に多くの課題があることを身をもって感じることができ、共生社会に向けて自身がどのように関わりをもつ必要があるのかを考える機会となった。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	実施種目の歴史やルールまたは活動の様子を事前学習した。
8 主な課題等	今後も授業を通して体験学習を行いたいと考えているが、施設や用具面において整っていない現状がある。そこで、支援学校との交流が実施できれば、更に多くの教育効果が得られるのではないかと考える。 一方、健常者側としてパラリンピック種目を支える実習などは非常に教育的効果が高いと感じるが、1 時間の授業の範囲でどう行うのかを更に創意工夫する必要があると感じた。
9 来年度以降の実施予定	（1）オリンピック・パラリンピック講演会の実施 （2）スポーツ科学概論にてポスターセッションおよび体験授業 （3）スポーツ総合専攻の卒業研究論文における課題研究および発表会 （4）スポーツ・教養コースの総合的な探究の時間における課題研究およびポスターセッション

シッティングバレー、ボッチャの様子